

InterSecVM/MW V6.0 オプションライセンス
セットアップ手順説明書

商標について

Microsoft、Windows および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

ごあいさつ

このたびは、InterSecVM/MW V6.0 のオプションライセンスをご購入いただき、まことにありがとうございます。

本書は、ご購入いただいたライセンスの確認方法やセットアップの方法を中心に記載しています。ご購入いただいたライセンスをお使いになる前に、必ずお読みください。

目次

1章 セットアップについて.....	1
2章 InterSecVM/MW の機能追加オプション.....	2
2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法.....	2
2.2. 機能追加オプションのライセンスの確認方法.....	7
2.2.1. 二重化構成構築ライセンスの確認方法.....	8
2.2.2. DNS/DHCP 強化ライセンスの確認方法.....	9
2.2.3. 全メール保存ライセンスの確認方法.....	10
2.3. 機能追加ライセンスのアンインストール方法.....	11
3章 InterSecVM/MW の WEBMAIL-X オプション.....	12
3.1. WEBMAIL-X の同時使用ライセンスについて.....	12
3.2. WEBMAIL-X のライセンス申請シートの送付.....	14
3.3. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスの登録.....	15
4章 注意事項.....	20

1章 セットアップについて

各オプション製品をご使用になるためには、まず、購入いただいた InterSecVM/MW に、各製品に添付されているライセンスをセットアップしていただく必要があります。

InterSecVM/MW のオプション製品は以下のラインナップにて構成されています。

1) InterSecVM/MW への機能追加オプション

以下の機能のライセンスを InterSecVM/MW に追加し利用することができます。

- InterSecVM/MW 二重化構成構築ライセンス
- InterSecVM/MW 全メール保存ライセンス
- InterSecVM/MW DNS/DHCP 強化ライセンス

2) InterSecVM/MW の WEBMAIL-X オプション

WEBMAIL-X はプリインストールされています。以下の同時接続ライセンスが準備されています。

- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 20 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 50 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 100 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 20 同時接続アカデミック
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 50 同時接続アカデミック
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 100 同時接続アカデミック

※ 出荷時に評価用としてWEBMAIL-Xの同時利用5ユーザーライセンスが付属しています。

本製品のセットアップには、以下の環境が必要になります。

- InterSecVM/MW
- InterSecVM/MW にブラウザ経由でアクセスできるクライアント PC

※InterSecVM/MW へは、Management Console を使用してアクセスします。

※ご使用になるブラウザは、Microsoft® Internet Explorer 11 以上を推奨します。

2章 InterSecVM/MW の機能追加オプション

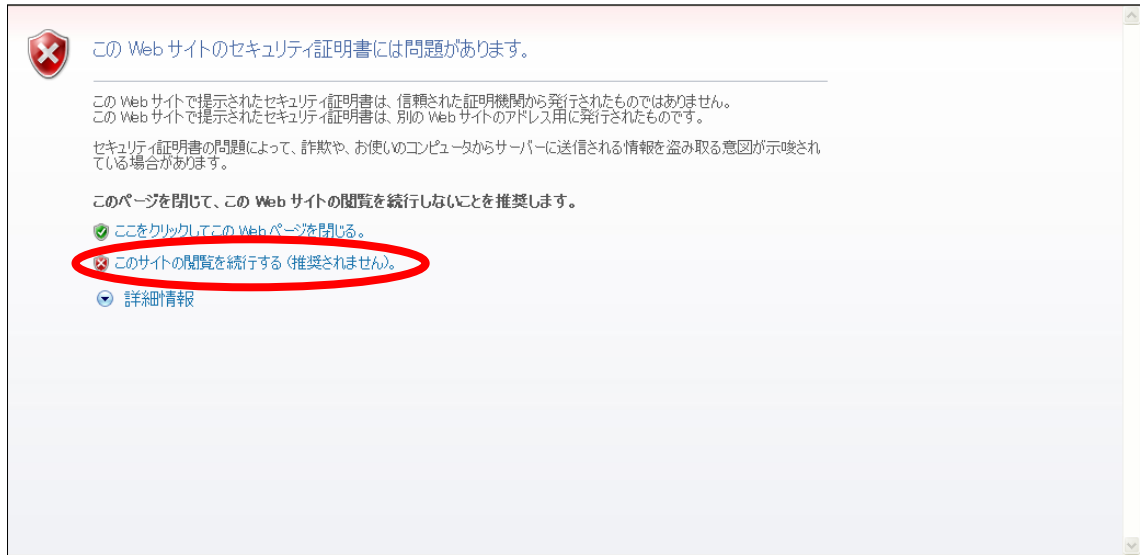
2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法

この章では InterSecVM/MW へ機能追加するためのライセンス製品のインストール方法を記述します。追加ライセンスには以下の機能があります。

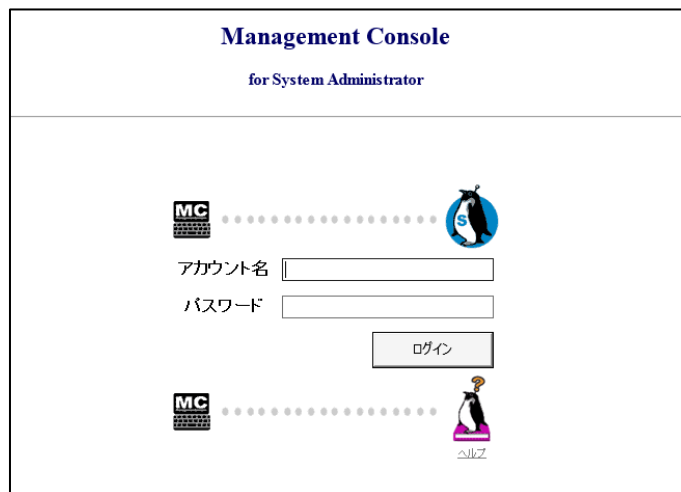
- InterSecVM/MW 二重化構成構築ライセンス
- InterSecVM/MW 全メール保存ライセンス
- InterSecVM/MW DNS/DHCP 強化ライセンス

- 1) InterSecVM/MW ライセンス製品を、InterSecVM/MW にインストールします。
ブラウザから Management Console を使用して InterSecVM/MW へアクセスします。
セキュリティレベルの選択によっては、アクセスすると以下の画面が表示されますので、このサイトの閲覧を「続行する」をクリックしてください。

Internet Explorer 11 以上の場合



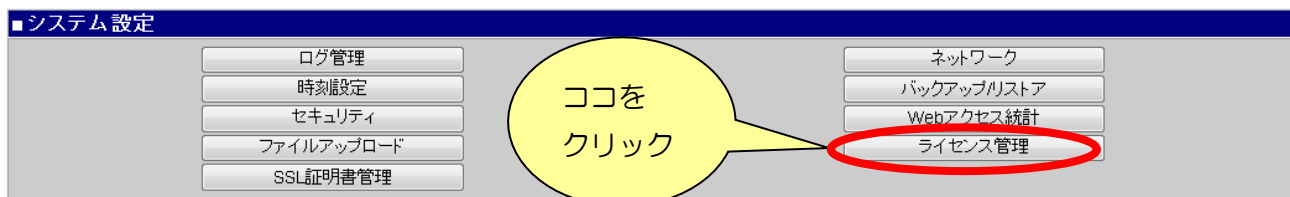
- 2) Management Console のトップページが表示されます。
正しい[アカウント名]、[パスワード]に入力してログインしてください。



- 3) ログイン完了後、Management Console の各種設定を行うための画面が表示されます。[システム]をクリックしてください。

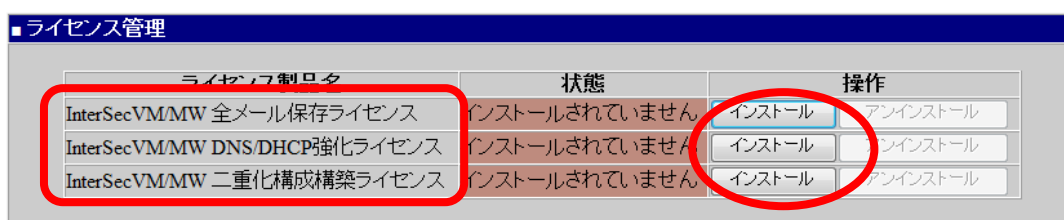


- 4) 「システム」画面が表示されます。システム設定の[ライセンス管理]をクリックしてください。



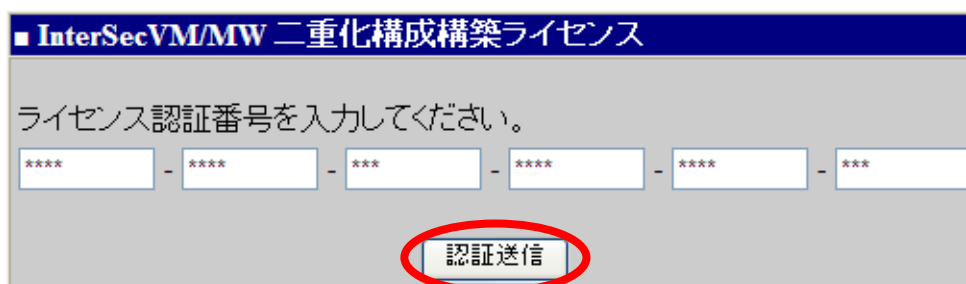
- 5) 「ライセンス管理」画面が表示されます。

インストールする InterSecVM/MW のオプションライセンス製品名に対応した[インストール]ボタンをクリックしてください。

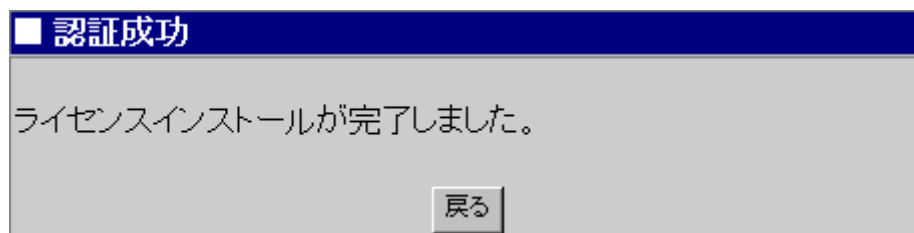


- 6) インストールするオプションライセンスの認証画面が表示されます。

ご購入されたライセンス製品に添付された「ライセンスシート」に記載されているライセンス認証番号を入力し、入力内容を確認した後、[認証送信]をクリックしてください。以下は、「InterSecVM/MW 二重化構成構築ライセンス」の例となります。

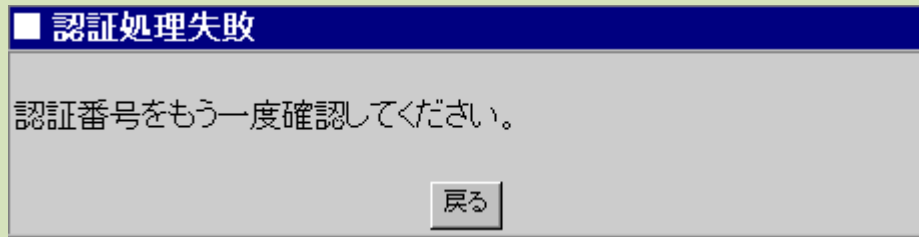


- 7) オプションライセンスが正常に認証されると、以下の画面が表示されます。

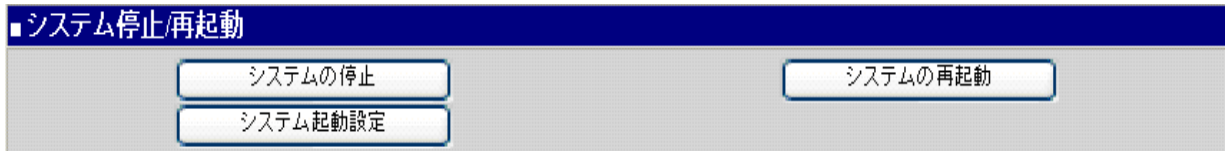




インストールに失敗した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。[戻る]ボタンをクリックして、ライセンス製品名とライセンス認証番号を再度確認して、手順(5)からやり直してください。



- 8) 以上でインストールは完了です。
システム画面を表示し、[システムの再起動]をクリックして InterSecVM/MW の再起動を行ってください。



二重化構成構築ライセンスで二重化システムを構築しているサーバ環境では、クラスタプロ(CLUSTERPRO)の Web Manager からシステム再起動を実施してください。

- 9) システム再起動の確認画面が表示されます。
[OK]をクリックしてください。再起動が実行されます。

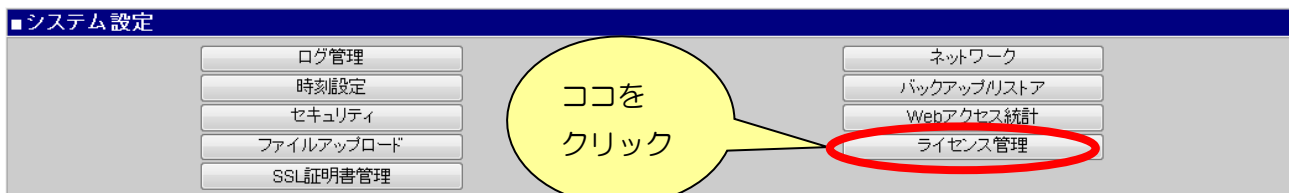


- 10) システム再起動後、オプションライセンスの機能に関連して表示が追加されます。
「2.2. 機能追加オプションのライセンスの確認方法」にしたがい、ライセンスの登録状況を確認してください。

2.2. 機能追加オプションのライセンスの確認方法

機能追加オプションライセンスの確認方法について説明します。

- 1) インストール方法と同様の手順で、Management Console から[システム]を開き、[ライセンス管理]をクリックしてください。



- 2) インストールされているライセンスがある場合、ライセンスがインストール済みであることが表示されます。以下の表示があれば、インストールが完了していることを表します。

以下は、「InterSecVM/MW 二重化構成構築ライセンス」を示した例となります。

■ライセンス管理

ライセンス製品名	状態	操作	
InterSecVM/MW 全メール保存ライセンス	インストールされていません	インストール	アンインストール
InterSecVM/MW DNS/DHCP強化ライセンス	インストールされていません	インストール	アンインストール
InterSecVM/MW 二重化構成構築ライセンス	インストール済み	インストール	アンインストール

2.2.1. 二重化構成構築ライセンスの確認方法

システム画面の[システム設定]に[フェイルオーバー]が以下の通り表示されていることを確認してください。以降は、InterSecVM/MW のユーザーズガイドの「フェイルオーバクラスタ構成のセットアップ」および「クラスタ構築手順書」を参照しクラスタ構成を構築してください。



2.2.2. DNS/DHCP 強化ライセンスの確認方法

1) Management Console から[サービス]を開きます。以下の画面が表示されます。

サービス

サービス [ヘルプ](#)

OS 起動時の状態	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▾	起動中	再起動	停止	Mission Critical Mail Filter(MCMail)
停止 ▾	停止中	起動	停止	メールサーバ(postfix) メールサーバ(dovecot)
停止 ▾	停止中	起動	停止	メールコントローラ(mvmtcf)
停止 ▾	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ディレクトリサーバ(openldap)
停止 ▾	停止中	起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▾	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
停止 ▾	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(srmpd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	システム監視(mvmonitor)
停止	停止中	起動	停止	サービス監視(chksvc)

2) [DNS/DHCP 強化ライセンス]に関する以下のサービスが表示されます。DHCP サーバの表示が追加されていることを確認してください。

停止 ▾	停止中	起動	停止	DHCPサーバ(dhcpd)
停止 ▾	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)

3) 以降は、InterSecVM/MW に添付されているユーザズガイドを参照し、DHCP サーバおよびネームサーバの詳細な設定を行ってください。

2.2.3. 全メール保存ライセンスの確認方法

Management Console の[メールサーバ]をクリックして表示される画面の「メールコントローラ (MWMCTL)連携」の[全メール保存機能設定]ボタンが有効(選択可)になっていることを確認してください。以下の通り表示されます。以降は、[全メール保存機能設定]を押下して、InterSecVM/MW のユーザーズガイドを参照し詳細な設定を行ってください。

※全メール保存ライセンスをインストールしていない状態では、[全メール保存設定]ボタンはグレーアウトしています。



重要

全メール保存ライセンスを使用するには設定後に[サービス]メニューのメールコントローラ (MWMCTL)の「起動」が必要です。

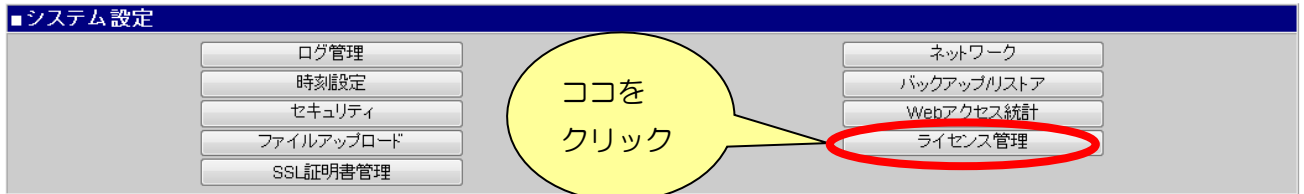
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールサーバ(postfix)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールサーバ(dovecot)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	メールコントローラ(mwmctl)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	WEBMAILサーバ(webmail-httpd)

メールコントローラ (MWMCTL)があらかじめ起動している場合は、サービスの「停止」後に「起動」を行ってください。再起動では反映されませんのでご注意ください。

2.3. 機能追加ライセンスのアンインストール方法

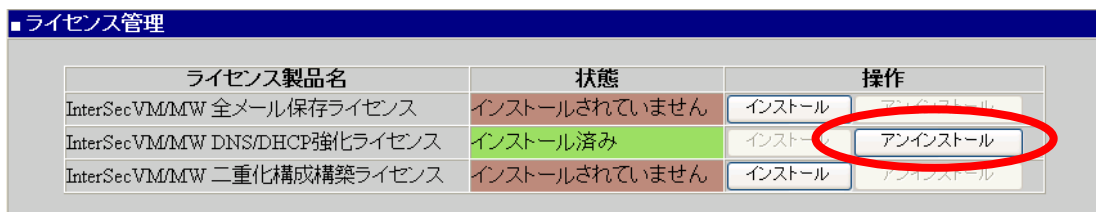
機能追加ライセンスのアンインストール方法について説明します。

- 1) Management Console から「システム」画面を開き、[ライセンス管理]をクリックしてください。



- 2) ライセンスがインストールされている場合、以下の画面が表示されます。

以下は、「InterSecVM/MW DNS/DHCP 強化ライセンス」がインストールされている場合の例となります。

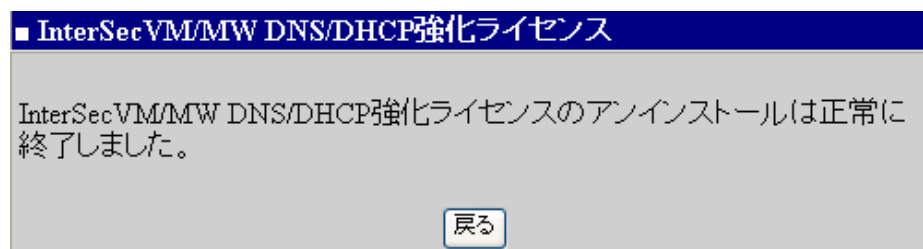


- 3) [アンインストール]をクリックします。

以下の画面が表示されますので[OK]をクリックしてください。



- 4) 正常終了すると以下の画面が表示されます。



以上で、アンインストールは完了です。「2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法」の 8)以降と同様の手順でシステムの再起動を行ってください。再起動後、「2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法」の 5)の画面で[アンインストール]が有効になっていることを確認してください。

3章 InterSecVM/MW の WEBMAIL-X オプション

3.1. WEBMAIL-X の同時使用ライセンスについて

WEBMAIL-X は、InterSecVM/MW にプリインストールされています。以下の同時ユーザライセンスを追加することで、利用することができます。

- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 20 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 50 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 100 同時接続ライセンス
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 20 同時接続アカデミック
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 50 同時接続アカデミック
- InterSecVM/MW WEBMAIL-X(WM) 100 同時接続アカデミック

※ 出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用 5 ユーザライセンスが付属しています。

本オプション製品をご使用になるためには、ユーザライセンスを申請後、登録していただく必要があります。あらかじめ、製品の購入時に添付されているライセンス申請シートを登録申請していただき、「ライセンス発行証」を入手してください。

本製品のセットアップには、以下の環境が必要になります。

- InterSecVM/MW
- InterSecVM/MW にブラウザ経由でアクセスできるクライアント PC
- ライセンス発行証

ライセンス製品に添付されているライセンス申請シートで登録申請することにより返送されます。InterSecVM/MW へセットアップを実施する前に、あらかじめご準備ください。詳細は以降の説明を参照してください。

- WitchyMail 管理者マニュアル

本マニュアルは、InterSecVM/MW 本体に添付されているインストールディスクの“¥doc¥witchymail¥”に“V45_Management_manual.pdf”が格納されています。

WEBMAIL-X の同時接続ライセンスの登録方法につきましては、本管理者マニュアルを参照してください。

※InterSecVM/MW へは、Management Console を使用してアクセスします。

※ご使用になるブラウザは、Microsoft® Internet Explorer 11 以上を推奨します。



WEBMAIL-X ではメールアドレスの保存場所に応じて、以下の2種類の動作形式（プロトコル）をサポートしています。お客様のシステム環境にあった動作形式を選択してください。

- IMAP 接続形式（こちらの利用を推奨します）

メールアドレスをメールサーバ側に保存する形式です。管理用のキャッシュデータなどが確保されます。InterSecVM/MW“以外”のメールサーバと WEBMAIL-X 機能の『IMAP 接続』で通信することも可能です。メールサーバと WEBMAIL-X 機能で『IMAP 接続』の通信動作を行う場合、選択してください。

- POP 接続形式

メールアドレスを WEBMAIL-X 側に保存する形式です。選択した場合、メールサーバから取得したメールアドレスを保存するための「個人メール保存領域」を別に、確保する必要があります。メールサーバと WEBMAIL-X 機能で『POP 接続』の通信動作を行う場合、選択してください。

追加で必要となるディスク容量の詳細については、「V45_Install_manual.pdf」のディスクプランニングの章を参照してください。

3.2. WEBMAIL-X のライセンス申請シートの送付

WEBMAIL-Xを使用する場合、事前にライセンス申請を行っていただく必要があります。
ライセンス申請シートを記入し、ライセンス申請シート上部にある送付先まで送付してください。
受付完了から14日程度で「ライセンス発行証」シートを宅配便で返送いたします。

3.3. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスの登録

この章では本ライセンスの登録までの手順について記述します。

- 1) InterSecVM/MW ライセンス製品を、InterSecVM/MW にインストールします。
ブラウザから Management Console を使って InterSecVM/MW へアクセスします。
セキュリティレベルの選択によっては、アクセスすると以下の画面が表示されますので、このサイトの閲覧を「続行する」をクリックしてください。

Internet Explorer 11 の場合



- 2) Management Console のトップページが表示されます。
正しい[アカウント名]、[パスワード]に入力してログインしてください。



- 3) ログイン完了後、Management Console の各種設定を行うための画面が表示されます。[サービス]をクリックしてください。



- 4) サービス画面の「WEBMAIL-X サーバ (webmail-httpd)」をクリックしてください。

■ サービス					
OS 起動時の状態	状態監視	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールサーバ(postfix) メールサーバ(dovecot)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールコントローラ(mwmctl)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▾	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止 ▾	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	システム監視(mwmonitor)
起動	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	サービス監視(chksvc)

設定

- 5) 初回アクセス時は、WEBMAIL-X サーバの利用するプロトコル選択（IMAP 接続および POP 接続）を実行するための画面が表示されます。

「POP 接続を使用する」、「IMAP 接続を使用する」のどちらかを選択し [設定] をクリックし利用するプロトコルの選択を行ってください。

設定しない場合は、「WEBMAIL-X」を使用することができません。また、一度、選択すると、インストール処理が動作します。その後で、選択したプロトコルは、変更することができませんのでご注意ください。

■ WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル

WEBMAIL-Xサーバを開始される前に必ずWEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定してください。この設定は、WEBMAIL-Xのご利用開始時のみ必要です。WEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定した後の切り替えはできません。

■ WEBMAIL-X 接続先メールサーバプロトコル選択

IMAP接続を利用する

POP接続を利用する

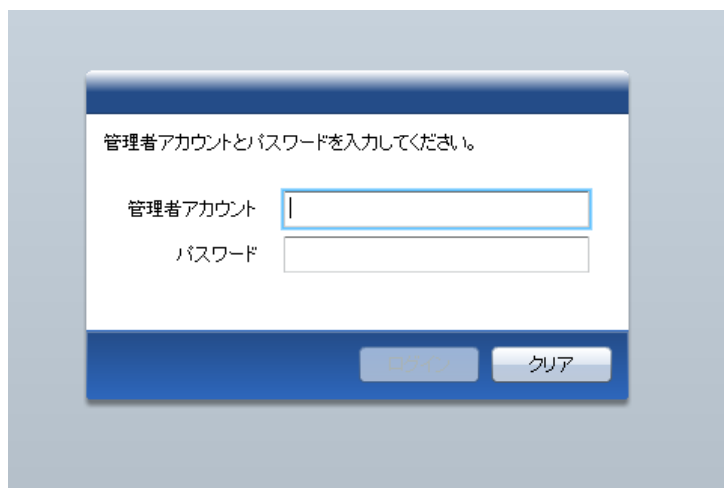
設定

プロトコル選択後の、詳細な設定や WEBMAIL-X の使用方法は、InterSecVM/MW に添付されているユーザズガイドの「WEBMAIL サーバ機能」を参照してください。

- 6) WEBMAIL-X のサーバ準備が整った後、WEBMAIL-X に接続し管理画面を表示させます。WEB ブラウザから WEBMAIL-X に接続する時は、以下の URL を指定してください。

- http://実ホスト名(FQDN形式):10080/manager/ （SSL未使用時）
- https://実ホスト名(FQDN形式):10443/manager/ （SSL使用時）

- 7) WEBMAIL-X 管理画面ログインの画面が表示されます。管理者アカウントとパスワードを入力してください。



WEBMAIL-X 管理画面の初期管理者アカウントとパスワードは以下の通りです。

管理者アカウント	: root
パスワード	: root

- 8) WEBMAIL-X のライセンスの登録

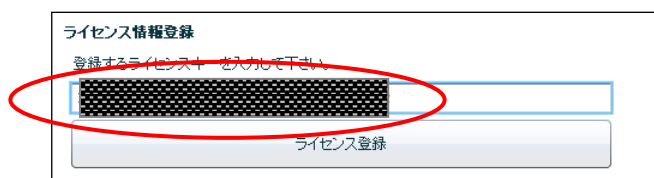
WEBMAIL-X 管理画面の左のナビゲーターでの[ライセンス管理]-[ライセンス]をクリックします。操作につきましては、添付の管理者マニュアルを参照してください。



- 9) ライセンス管理画面が表示されますので、あらかじめ取得した「ライセンス発行証」のライセンスキーを入力し「ライセンス登録」ボタンを押下します。

以下の画像で入力されているライセンスキーは入力例です。

※「ライセンス発行証」は、ライセンス申請シートの申請に基づき発行（返送）されます。



- 10) ライセンス管理画面からライセンス情報が更新されたことを確認してください。
追加するライセンスが他にもある場合は、続けて登録してください。ユーザ数が加算されます。

The screenshot shows the 'ライセンス情報' (License Information) section with the following details:

- バージョン: 4.00.15
- ライセンス数: 同時利用ユーザ数: 1 / 最大同時利用ユーザ数: 5
- 使用期限: 期限無し
- オプション: 携帯, Lite Access, LDAP,

Below this is the '登録済みライセンス' (Registered Licenses) section, showing 'ベースライセンス' (Base License) with a redacted area. Two callout boxes are present: one pointing to the '最大同時利用ユーザ数' (Maximum concurrent users) field with the text '最大同時利用ユーザ数が増加します' (Maximum concurrent users will increase), and another pointing to the redacted area with the text '登録ライセンスが表示されます' (Registered licenses will be displayed).



InterSecVM/MW には、出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用5ユーザライセンスが付属しています。ライセンスを追加登録した場合は、この5ユーザライセンスは加算されず上書きされます。



ライセンス登録に失敗した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押して、ライセンス情報を再度確認して、手順(9)からやり直してください。

The screenshot shows an error message dialog box with the following text:

ライセンス情報が取得できないため、登録処理を中止しました
(MDLS7001)

At the bottom of the dialog is an 'OK' button.

- 11) 以降は、「WitchyMail 管理者マニュアル」を参考に必要事項を設定してください。

4章 注意事項

- 1) InterSecVM/MW の機能追加オプションライセンスは、InterSecVM/MW の1 システム（二重化構成においてもそれぞれを1 システムとみなします）にのみインストール可能です。
フェイルオーバークラスタ構成の場合は、クラスタを構成する2台の InterSecVM/MW それぞれについて、InterSecVM/MW のライセンスを必要数分購入しインストールする必要があります。
- 2) WEBMAIL-X 同時接続ライセンスは、InterSecVM/MW の1 システム（二重化構成においては、稼動系に追加します。二重化構成を1 システムとみなします）にライセンスを追加可能です。
- 3) InterSec/MW には、出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用5ユーザライセンスが付属しています。なお、ライセンスを追加登録した場合は、評価用の5ユーザライセンスは加算されません。
- 4) InterSecVM/MW のユーザズガイドは、InterSecVM/MW に添付されたインストールディスクに格納されています。
- 5) WEBMAIL-X 同時接続ライセンスは、InterSecVM/MW からアンインストールすることはできません。
- 6) 『WitchyMail 管理者マニュアル』は、InterSecVM/MW に添付されたインストールディスクに格納されています。
インストールディスク“/doc/witchymail/”の“V45_Management_manual.pdf”を参照してください。